

ひとひとの情報紙 ビギン

Begin

2019
第20号

はじめよう!



■特集：人生100年時代です！

自分らしく輝き続けるための男女共同参画

■セミナー報告

特集

人生100年時代です！

自分らしく輝き続けるための男女共同参画

人は、誰もがその人らしく輝く存在です。今は人生100年時代と言われ、2007年に日本で生まれた子どもは107歳まで生きる確率が50%とも言われています。そこで今号は、人生100年時代を自分らしく輝き続けるための**ヒント**をお伝えします。

まず、人生100年時代と聞いてどんな**期待**や**不安**や**本音**があるか、アンケートや取材でみなさんの声を聞きました。



上記以外にもたくさんのご意見、ご感想をいただき、半数以上の方がポジティブなイメージをお持ちでした。主なご意見をまとめると以下のポイントが見えてきました。

- 一、健康を維持していく
- 一、家庭内のコミュニケーションを大切にする
- 一、老後資金の確保や自分なりの生きがいを見つける
- 一、家事や地域活動などに積極的に参加する
- 一、これからの不安やプレッシャーに負けない

次に…

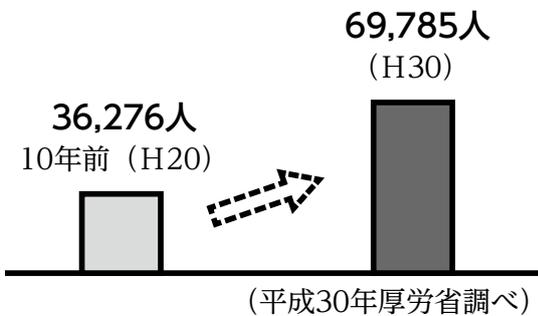
なぜ今、人生100年時代といわれるの？

政府は、人生100年時代構想を掲げ、誰もが夢に向かって頑張ることができる社会、いくつになっても学び直しができ、新しいことにチャレンジできる社会をめざしています。最近のデータなどからは健康寿命*が伸びていき、教育⇒仕事⇒引退という直線的な人生から、その人にあった様々なステージを行き来する人生に変化していくことが示されています。



背景やイメージを見てみると……

100歳以上の高齢者数の増加



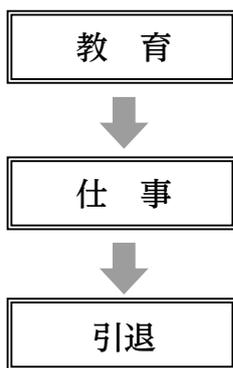
健康寿命の上昇

男性 72.14 歳
女性 74.79 歳

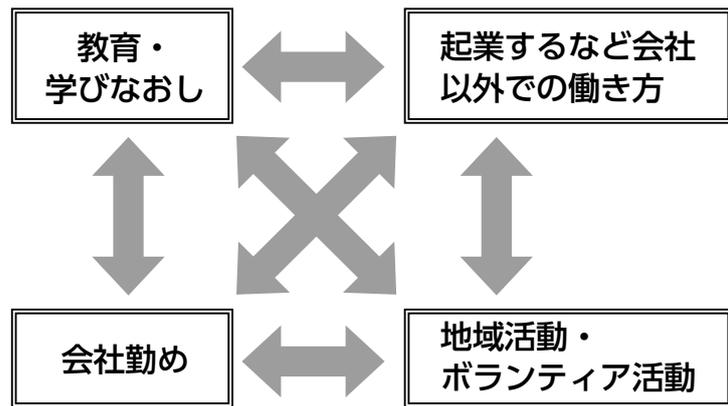
(平成27年データ厚労省調べ)

ライフステージの変化

直線的な人生



様々なステージを行き来する人生



長い人生、自分らしく輝き続けるためには、様々な立場や価値観の人とのコミュニケーションが重要となります。家庭、学校・職場、地域社会など様々な場面で相手を認め、お互いを尊重しあうことがこれまで以上に必要になるのではないのでしょうか。

そこで…

性別などにとらわれずいきいきと暮らすために**男女共同参画**の考え方が必要になります。人生100年時代を生きるヒントとして男女共同参画について次のページで少しおさらいしましょう。

*健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。

今さら聞けない！？

なるほど！



男女共同参画ってこういうこと！

平成15年に入間市男女共同参画都市宣言*が宣言されて、15年が経過しましたがまだまだ「男女共同参画」という言葉があまり浸透していません。ここでは私たち市民が目指す男女共同参画についておさらいします。

家庭

- 男性も女性も、子どもも、高齢者も、障がい者も、誰もが家族の一員として、尊重され、お互いに支え合い、家庭生活を築きます。
- 掃除、洗濯、食事の支度や後片付け、育児、介護など、あらゆる場面で家族全員が協力して分担します。



学校・職場

- 性別にとらわれず、一人ひとりの個性や能力を伸ばすような教育が行われ、子どもたちもお互いの個性を尊重します。
- 職場の意思決定の場において男女が対等に参画し、活力ある経営が行われます。



地域社会

- 固定的な性別役割分担意識に基づく古い慣習が見なおされ、一人ひとりがお互いの行動や考え方を尊重します。
- 性別や年代を超えて、自治会など地域の意思決定の場へ様々な人が参画し、豊かで住みよい地域づくりに貢献します。



男女共同参画とは、性別や年齢にかかわらずお互いを思いやり、それぞれの個性を発揮し、みんなが自分らしく幸せな人生をおくることを目指すものです。

*平成15年11月に宣言された宣言文です。

入間市男女共同参画都市宣言

わたしたちは、あらゆる分野において女性も男性も一人ひとりが特性と能力を十分発揮し、対等の立場で参画するとともに責任を分かち合う男女共生社会の実現に向けて、ここに「男女共同参画都市」を宣言します。

- 一、わたしたちは、男女が性別にとらわれず個人として尊重し合うことを大切に、共にかがやき、いきいきと暮らす「入間」をめざします。
- 一、わたしたちは、男女がお互いに対等な立場で、政治・経済・社会・文化などのあらゆる活動に等しく参画する元気な「入間」をめざします。
- 一、わたしたちは、男女が家事・育児・介護などを分かち合い、互いに支え合う、思いやりあふれた「入間」をめざします。
- 一、わたしたちは、男女が国際社会の一員として共に協力し、平和を愛する香り豊かな緑の文化都市「入間」をめざします。

次ページでは知識経験者の話を聞いてみましょう。

人生100年時代のイメージは

清水 実際に考えてみた時に、30歳代、40歳代の若い時代が延長されて100歳まで元気で生きられる時代なら良いですが、自分の健康寿命がどれだけなのかなど、心配は多いと思います。

久保庭 健康でその人らしく、「それぞれの人権を尊重して個性と能力を高めあう人間」の理念にあうような形で長く生きられるかどうかということが重要ですよ。

山本 突然人生100年時代という言葉が出てきた印象があります。幼い時から自分の人生が100歳だという心構えがあると人生設計をすることができると思いますが、急に寿命が延びる印象を多くの人が持っていると思います。



久保庭委員

仕事はたくさんの人に出会い、人生が豊かになると思います。



荒岡委員

周りの人と心地よい関係をつくっていききたいと思っています。

～フリートーク～
男女共同参画と人生100年時代

ここでは、知識経験者である男女共同参画アドバイザー会議委員*のみなさんに特集テーマに関連して「男女共同参画と人生100年時代」について座談会形式でお話を聞きました。



大切なことはお互いを尊重し合うことではないでしょうか。

100年時代は、本当に大切なことは何か考え続けることが必要と感じます。



山本委員



清水委員

そのような状況で個人がどう対応していくか考える必要があると思います。

荒岡 私はこのまま元気で過ごせていたら仕事は続けたいです。仕事で今の年齢でやっている伝え方と100歳での伝え方は変化すると思います。100歳まで元気で仕事ができるのであれば楽しみです。

過去と比べた男女共同参画、そしてこれからについて

清水 過去と比べて、女性の就業率について全体的に上がっていると感じます。必要に迫られてという部分はあるのかもしれませんが、自分の働きたいという意志が実践できているという部分で少しずつ進んできたのかなと感じました。もちろんまだ管理職が少ないとか、考えていかなければならないことはたくさんあると思います。

*男女共同参画に関する事業等について男女共同参画審議会委員を経験された方や知識経験者の方から助言をいただいています。

荒岡 仕事をするうえで、男性と女性がお互いが張り合っているのではなく、お互いがいいところを尊重し合う意識が大切だと思います。若い世代では、それが普通になっていく感じがします。

山本 家庭の中での男女共同参画的な要素がとても大切になってくると思います。今まで家族が担っていた役割や機能が、どんどん社会に出てきています。家庭では、男だから女だからという固定的な考えではなく、お互いが尊敬し合いながら生活していくことが求められると思います。お互いにサポートしあいながらでないといけないことがたくさんあります。

清水 長生きをしていくとなると、現在とはいろいろ変わっていくと思います。何が大切かということや早いうちから考えながら生きていかなければいけないと思います。人は、ひとりでは生きていけないので、みんなで考える必要があると思います。

山本 今はひとりで生きていくような気がする時代だと思うんです。でも絶対ひとりだけでは生きていけない。人との関わりがなかで人が社会を作るわけですが、社会の基本には家庭や家族が存在するよう思います。家族ってというのは結婚した相手だけでなく、自分の親子や兄弟も含めてです。そういう人に育ててもらって大きくなった気がします。

久保庭 男女性別かわりなく社会性をいかに人として保っていくかということですね。人と関わろうとする人は自分を高めていきます。100年生きるには準備が必要になってくる。体もそうですが自分で自分の心を整えていくという部分も大切ではないかと感じています。



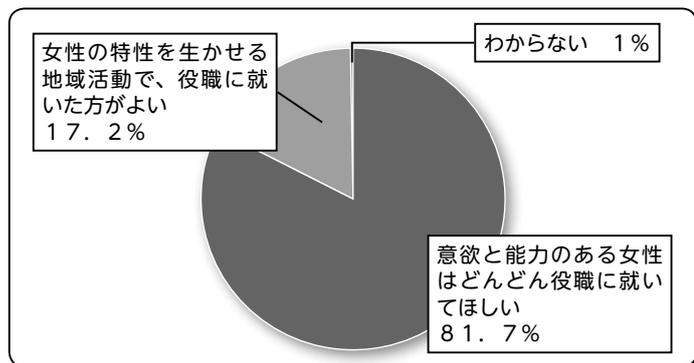
クローズアップ

本紙作成にあたり、地域のリーダーである自治会長(120人)に、男女共同参画についてのアンケートをお願いしました。回答された約8割の方々が女性の地域活動への参加を求めていることがわかりました。地域社会での女性の活躍が期待されています。女性も男性もこれまでの意識や視点を変え、自分のため、地域のために地域活動に参加してみませんか。

【主な回答】

問 自治会長・自治会役員などで運営・方針を決定する役職に女性が就くことについて、どのように思いますか。

回答 意欲と能力のある女性は
どんどん役職についてほしい
81.7%



問 「男は仕事、女は家庭」などの男女の固定的な役割分担の考え方をどのように思いますか。

回答 そうは思わない **59.2%**
 どちらかといえばそうは思わない **19.4%**
 どちらかといえばそう思う **20.4%**

入間市では、自治会をはじめ、地域社会でいきいきと活躍されている方々がたくさんいます。その中から2つの活動を紹介します。

子育てサロンわいわい

活動内容

お父さん、お母さんの子育てに関する不安や悩みを相談できる仲間づくりや子どもを自由に遊ばせながら、子育てのことや生活環境のことなどの様々な悩みを気軽に話せる『居場所』を目指しています。

子どもと一緒に参加すると、親子で新たな気づきがあるかもしれません。

開催日時は毎月第2、第4の木曜日の午前10時から正午まで、場所は入間市男女共同参画推進センター（イルミン2階）の子供室です。0歳児から就園前の乳幼児と保護者の方、大歓迎です。

スタッフから一言

少しでも親子の支援になればと活動しています。我々もお子さんからたくさんエネルギーをいただいています。ボランティアには、女性スタッフだけでなく、男性スタッフもいます。

関心のある方は左記に、お問い合わせください。

入間市社会福祉協議会
(地域福祉担当)
☎2963-1014



いるまアクティブシニア

「余生与世」事業

「NPO法人まちづくりサポートネット 元気な入間」と市は協働で、定年退職後や還暦後も趣味や様々な活動に意欲的なシニア層であるアクティブシニアを支援する事業を行っています。

「何か活動してみたいけれど、どこから始めていいかわからない」と思っている方を、地域活動、ボランティア活動などにつなげていくことを目的としています。

平成30年度は「アクティブシニアであるために鳥越俊太郎さんに聞いてみよう！」などの講演会を開催しました。今後も事業展開しますので、興味のある方は左記にお問い合わせください。

NPO法人まちづくりサポート
ネット元気な入間
☎2964-2511 (市民活動センター)



11月に開催した講座の様子

おわりに...

今回、人生100年時代を自分らしく輝きつづけるためのヒントとして特集を組みました。「人生100年時代」と言っても見えない部分が多いのが、みなさんの正直な感想かと思えます。

これからの時代を自分らしく生きるためには、男女共同参画という性別や年齢にとらわれず一人ひとりが尊重される考え方やお互いを思いやる気持ちが大切ではないでしょうか。

この情報紙ビギンをきっかけに、人生100年時代について身近な誰かと話をするなど、できることから始めてみましょう。「Begin はじめよう！」

市からのお知らせ

「平成30年度男女共同参画
セミナー公開講演会」
を開催しました。



(有) みかん山プロダクション代表取締役
辻 イト子氏

平成30年12月8日、市民活動センター活動室1（イルミン3階）にて（有）みかん山プロダクション代表取締役による講演会を開催し、多くの市民の方が参加されました。「人生100年時代！まだまだ輝きたい、人生これから」をテーマに、人生100年時代を生きるヒントについてお話いただきました。

「いくつになっても人生チャレンジ!」、「新しい出会いが人生を豊かにする」と語る辻氏の講演には、誰もがイキイキと生きるためのヒントがたくさん詰まっています。



男女共同参画推進センター 女性のための相談事業の紹介

悩みごとと電話相談 毎週水曜日

午前10時～正午・午後1時～3時 ※相談時間1人30分

TEL:04-2964-2545 (相談員直通)

悩みごと面接相談(予約制) 毎週月曜日・金曜日

午前10時～正午・午後1時～3時 ※相談時間1人60分

TEL:04-2964-2561 (専用)

法律相談(予約制) 毎月第3水曜

午後1時15分～4時45分 ※相談時間1人30分

TEL:04-2964-2561 (専用)

※相談員の状況で変更する場合は有

入間市女と男の情報紙「Begin はじめよう!」は 祝20号を迎えました! これからもよろしくお願ひします。



バックナンバーは男女共同参画推進センター（イルミン2階）でご覧いただけます。

お聞かせください

あなたの声

女と男の情報紙は、男女が共に輝き、いきいきと暮らしていくために参考となる情報をお伝えします。

楽しい紙面作りには皆さんのご意見や感想が必要です。

編集協力委員としてご協力いただける方、お待ちしております。

女と男の情報紙編集会議

企画・編集

発行

入間市市民生活部人権推進課【男女共同参画推進センター】

〒358-0003 入間市豊岡4-2-2

TEL 04-2964-2536

FAX 04-2964-2539

メールアドレス danjyo@ictv.ne.jp

ホームページアドレス <http://irumadanjyo.seesaa.net/>

※入間市女と男の情報紙「Begin はじめよう!」は第4次いるま男女共同参画プランに基づいて発行されています。

発行日

平成31年3月

イラスト

原田 寛子



わたしたちが

編集協力員です

諸井 宮崎 原田 大島

和江 房枝 寛子 光恵